



業種 : 製造業  
 会社概要 : 産業機器組立  
 設立 : 1971年4月  
 資本金 : 1,000万円  
 代表者 : 代表取締役社長 豊田智朗  
 社員数 : 52名  
 所在地 : 小田原市成田938  
 ホームページ : <http://www.minon.co.jp>

## 会社のPR情報

弊社は現在53期目となる会社です。

【人と自動化との最適調和をつくり 希望の心と豊かな時代づくりに貢献します】  
 を経営理念として社員の幸せのため、お客様と社会の為に存在することを目的とした企業です。

検査工程の人的負担を取り除く為の自動検査機や、ホテルの精算機など仕事や生活を“べんり”にする製品を組立てています。

## 会社からのメッセージ

難しいを簡単にすることが、仕事の効率と精度を向上させること。

この自社の風土文化はどの仕事にも反映され、手順と仕組みに活かされています。

障がいのある社員もひとりの大切なパートナーであり、周囲に求められやりがいを感じることができる環境をつくるのが会社の役割だと考えています。

だれもが事業の一翼を担うために共に育つことを考える会社です。

## 障害者雇用への取組の成果 (認定に当たったの評価ポイント)

### 数的側面

雇用状況	実雇用率	2.41%
定着状況	過去3年間に採用した障害者の就職6か月後定着率	100%
	過去3年間に採用した障害者の就職1年後定着率	100%

## 障害者雇用への取組 (認定に当たっての評価ポイント)

### 体制づくり

#### 組織面

#### ◆ 支援担当者の配置等

障がい者の就業全般において、実働の製造部署責任者を定め、日々の業務と就業面の相談等、細やかに対応できる体制を整えている。

毎日の業務を指示しながら作業の準備、生産後の片付け確認（残部材が無いかなど含めて）、生産品の確認をしながら密にコミュニケーションをとり、状態を把握している。

### 仕事づくり

#### 事業創出

◆ 2020年、2021年と経常利益は黒字となっている。

#### 職務選定・ 創出

#### ◆ 障害特性に配慮した職務を選定・創出

2020年に障がい者を雇用する際は、事前に職場実習を行い特性を把握した。繰返し作業できる工程を選定し、作業終了後には、完結を確認できるような作業を専用に選定して実施した。その後、採用時には現場責任者と当面の業務内容と将来像、働きがいを考慮しながらスキルUPを目指すことなどを話し合い、担当業務を選定した。

### 環境づくり

#### 職務環境

#### ◆ 障害特性に配慮した作業マニュアルのカスタマイズ、作業手順の簡素化

作業自体は生産数量通りの部品数を順番に並べ、作業手順書を用意し、作業開始前に見本を作ることで悩まない環境づくりとしている。

また、作業はチェックリスト等を用い、作業後の確認を他者ができる環境としている。

#### ◆ 健康管理・福利厚生

通常健康診断の実施と事後の結果確認にて健康管理を実施している。また、毎日の作業指導の際には本人の健康状態とメンタルの状態を把握しながらコミュニケーションを取っている。

## 環境づくり

<p>募集・採用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>障害者の職場実習の受入れ</b> 2015年以降、直近では2020年までに特別支援学校やインクルーシブ校、就労支援機関より職場実習生を受け入れている。現在も実習受入れは可能な状態であることを当該校にお伝えしている。</li> <li>◆ <b>障害者雇用に関する先進的な他企業の見学・ヒアリングの実施</b> 2021年9月に障がい者雇用への取組等の把握を目的に、K社の実施しているアセスメントの見学をした。 就労支援機関の開発した障がい者の能力を可視化できる「キャリアサポートカルテ」を活用した取組を常務取締役、障がい者支援担当者、障がい当事者と見学。</li> </ul>
<p>その他の 雇用管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>障害者の業務管理等のための日報の作成</b> 障がいのある職員については、日々の作業について出来高の日報を記載してもらっている。 職場の責任者についても、作業の進捗状況を確認して、声かけを行う等日常的なサポートを行っている。</li> <li>◆ <b>障害者の職場定着のための外部機関との連携</b> 小田原養護学校大井分校の方に、相談支援等のため定期的に来訪いただいている。</li> </ul> <p>2021年9月には就労支援機関へ委託し、下記のことを目的にキャリアサポートを受けた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障がいのある方々の能力の可視化</li> <li>2. 客観的アセスメント⇒合理的配慮・教材の提案</li> <li>3. 会社の想定とアセスメントのギャップを埋める</li> </ol> <p>この結果を元に今後の育成に活用していく。</p>